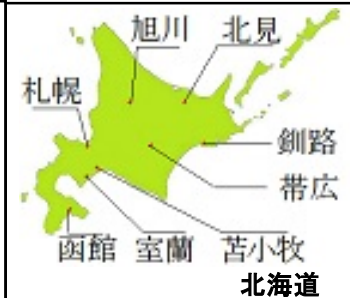


食べる・たいせつフェスティバル2017

事業実施主体:生活協同組合コープさっぽろ(北海道)

- コープさっぽろでは、食育を推進するネットワーク作りの形成や、これからの未来を担う子供たちに「食べることの大切さ」を感じてもらうことを目的として、「知って食べると、もっとおいしい！」をテーマに全道8ヶ所で『食べる・たいせつフェスティバル』を実施した。



【取組の内容】

「食べるたいせつフェスティバル」は、2007年から昨年で10回目を迎え、北海道各地で、おいしい「食」の発見や、地産地消に取り組む地域の生産者・企業等と消費者との交流を促すイベントとして地域といっしょに成長してきた。

また、児童を対象とした体験プログラムでは五感で楽しみながら「食べることの大切さ」を発見できる「地域の食育イベント」として、大きな役割をはたしてきた。

2017年度は、札幌・室蘭・釧路・旭川・北見・帯広・函館・苫小牧の8会場で621団体が出展し、総来場者数は31,812人となる大規模なものとなった。



【取組の成果】

- 参加型体験プログラムにより子供たちに「生きる力」を！

「食べるたいせつフェスティバル」は、単なる展示会や物産展とは異なり、学びの機会を提供するイベントとして、各地域の方々の協力のもと「食」だけでなく「環境」など暮らしに関わる様々な体験を子供たちに提供して「生きる力」を五感で体験する取組みを行ってきた。



- 「食べることのたいせつさ」について理解深まる

生産から流通・消費に至る関係者が一体となって取り組むことにより、相互理解が深まり、参加者から「生産者の方と直接お話できるのが嬉しい。」「食の大切さが体験を通じて実感することができた。」などの感想が聞かれ「食べることのたいせつさ」について継続的に発信し、全道的な取り組みとなっている。